

論文番号 194

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Lifestyle risk factors for cancer: the relationship with psychosocial work environment

癌の危険因子としての生活習慣：心理社会的仕事との関連

執筆者

A Jeanne M van Loon, Marja Tijhuis, Paul G Surtees and Johan Ormel

掲載誌 (番号又は発行年月日)

International Journal of Epidemiology 2000; 29:785-792

キーワード

Job stress, demand-control theory, smoking, alcohol, diet, physical activity

要旨

背景

心理社会的仕事の特徴は、喫煙習慣や多量飲酒、果物や野菜摂取不足、運動不足といった癌に影響を及ぼす生活習慣とともに癌のリスクだと考えられている。心理社会的特質というのは、仕事への要求、管理、支援、緊張感、仕事場での社会的孤独を伴う高い緊張感を指す。

方法

オランダで現在追跡中である前向き研究データ (3,309 名) を用いて断面調査データとして解析した。この前向き研究は心理的因子と癌の発症を明らかにする研究である。20 歳から 65 歳の男女のデータで、仕事の種類とその他の因子について自己記入式の調査票を使用した。

結果

心理社会的仕事の特徴というものは、癌を引き起こす危険因子として有意にならなかった。しかし多変量解析の結果、仕事での緊張感と癌に及ぼすいくつかの生活習慣との間で関連がみられた。

アルコールについて詳細にみると、女性において心理社会的仕事のうち仕事への要求が高い群では低い群と比して飲酒習慣のある者の割合が高かった。また仕事上で管理機構が大きい群では低い群と比して飲酒習慣のある者の割合が高かった。

結論

今回の報告では、仕事上の緊張感もしくは社会的孤独を伴う緊張感が、癌を引き起こす生活習慣と関連があるという仮説は立証できなかった。今後、人格や仕事以外の社会支援のような、他での心理社会的因子との関連も見ていく必要がある。